

# 特攻

第8号

〒102(新)

東京都千代田区九段南

4-3-7 勤信行社内

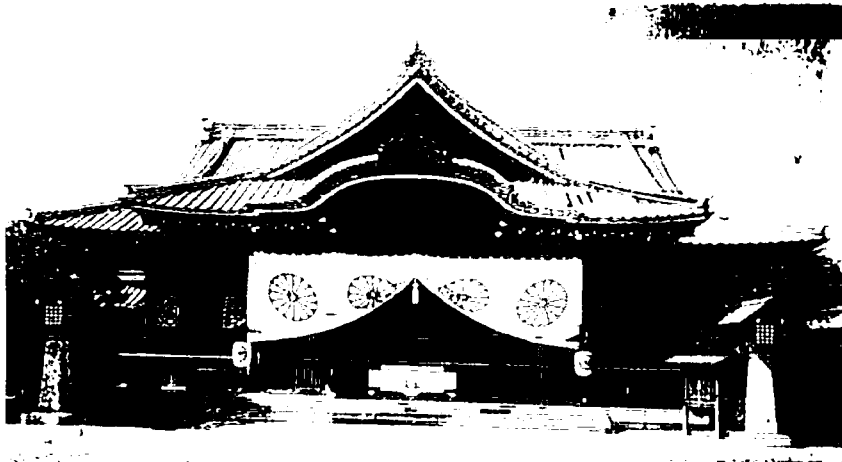
特攻隊慰霊顕彰会

特攻平和観音奉賛会

電話 03(263)0851

編集人  
発行人

最上貞雄



## 特別攻撃隊の英霊に捧げる

### アンドレ・マルローの言葉

元リヨン大学客員教授 特操3期 長塚 隆 二

思うに、日本人ほど安易に価値観を逆転させる国民もまれであろう。きのうの「善」が、翌日にはいとも簡単に「悪」に一変する。昭和二十年八月まで「生き神様」と仰がれた特別特攻隊員も、八月十五日一夜が明ければ「特攻くずれ」である。十八世紀の大革命で価値の転換はすでに卒業したフランス人には、とうてい考えられないことかもしれない。

祖国が戦いに敗れると、ダメな兵隊だったことを棚にあげて、軍国主義を否定するために軍務をできるだけないがしろにしたと自慢する文士がいれば、生命の貴さを力説するために、「あたら若いのちを粗末にして」と特別特攻隊員をとやかくいう進歩的知識人もいた。途中でグラマンに食われることを承知で練習機にまで爆装して出撃させた軍上層部の無謀をあげつらうならともかく、特攻隊員の純粹な心を傷つける言葉に、私は憤怒を覚えたことが一度や二度ではない。

昭和四十九年夏、パリ南方郊外のア

祖国が戦いに敗れると、ダメな兵隊だったことを棚にあげて、軍国主義を否定するために軍務をできるだけないがしろにしたと自慢する文士がいれば、生命の貴さを力説するために、「あたら若いのちを粗末にして」と特別特攻隊員をとやかくいう進歩的知識人もいた。途中でグラマンに食われることを承知で練習機にまで爆装して出撃させた軍上層部の無謀をあげつらうならともかく、特攻隊員の純粹な心を傷つける言葉に、私は憤怒を覚えたことが一度や二度ではない。

戦後にフランスの大臣としてはじめて日本を訪れたとき、私はそのことをとくに陛下に申し上げておいた。フランスはデカルトを生んだ合理主

義の国である。フランス人のなかには、特別特攻隊の出撃機数と戦果を比較して、こんなにすくない撃沈数なのに、なぜ若いいのちをと、疑問を抱く者もいる。そういう人たちに、私はいつもいってやる。母や姉や妻の生命が危険にさらされるとき、自分が殺られると承知で暴漢に立ち向かうのが息子

の、弟の、夫の道である。愛する者が殺められるのをだまして見せざるものだろうか？と。私は、祖国と家族を想う一念から恐怖も生への執着もすべてを乗り越えて、いささよく敵艦に体当たりをした特別特攻隊員の精神と行為のなかに男の崇高な美字を見るのである。

二十世紀の思想を代表するフランスの文人アントレ・マルローは、こういうと床に視線を落としたまましばし黙した。まさに百の頌詞にまさる言葉であろう。私はこれをつつしんで特別特攻隊の英霊に捧げたい。

打ち揃って拝殿に参入、慰霊の儀が厳肅莊重に執り行われたのであります。竹田会長様の奏せられる祭文の言々句々、石橋一歌様の、「ご英霊の遺勳顕彰の朗朗の献吟に、特攻散華のご祭神も、定めし照覽せられたものと感銘を深くした次第です。

## 第十一回特攻隊合同

### 慰霊祭に参列して

少候20期 福井 勝見

三月二十六日、靖国神社に於て、横記

の慰霊祭が挙行されました。前日日本の不順な空模様は限なく晴れ渡り、温暖快適、陽春の気満ち満ち、境内の桜は満開近きを思わせ、参拝者の心を、いやが上にも和ませていてくれました。定刻十二時、参集所に集會、日本の

参列者はご遺族を含め約五百名と紹介されました。顕彰会長竹田恒徳様のご懇篤なご挨拶のあと、特別にしつらえられた昭和天皇の御真影に黙禱を捧げ、つづいて鈴木理事長様の諸報告を拝承、終つて

満たない春秋に富む若い海、空の戦士が、後に続く者を信じて困難に殉じ、護国の鬼と化され、そして祖国の復興、高度成長の礎を築かれたその威烈に対し、生を全うし、平和を享受している私国民は、何と感謝してよしいやら言葉に窮する思いを禁じ得ません。

なお、われらが同期故伍井芳夫中佐のように、三十三歳、妻子四人を遺して特攻玉碎された空中戦士のおられることも忘れ得ません。



# 平成の御代に

## 昭和特攻を想う

57期 植田 弘

### 昭和の御代が終って

この二月、昭和天皇とのお別れのため、二重橋を渡り、皇居の御真影の前に額づいたとき、昭和の御代の終結を身をもって感じ、振り返り、また振り返りながら退去した。

昭和の年号と自分の年令を同じくする私どもにとって、昭和という人生の土台を失ったときの慌て振り、あせりすら感じるこの頃であった。

昭和とともに生き、昭和に殉じようとした、私ども人生の原点は何だったのか、その原点を尋ねるとき、無精に特攻隊の仲間たちに会いたくなくなった。彼等こそ昭和滅亡の危機に若い生命を捧げて、大君と国家を守り抜いてくれたのである。この個人と国家との間の生きざま、死にざまを原点として確かめたかったのである。

毎年五月三日には特攻基地、鹿児島  
の知覧で、特攻慰霊祭が挙行され、今年で三十回を迎える。知覧の町関係者

は、この町が特攻の聖地であることを記念して観音堂を建てた。記念館に資料を揃え、道路に石灯籠を配して、長く鎮魂と平和祈念の場としている。その聖地の灯し火が、平成の御代になつて、歴史の風化とともに消えてしまつてはないか。それが私の心配のひとつであった。

結論からいうと、その危惧は全くい  
らなかつた。例祭参列三度目の私の見  
た限り、諸施設は一段と整備され、参  
列者は祭場にあふれ、前回以上の盛会  
であった。毎年五月の知覧特攻慰霊祭  
は確実に定着している、地元同期  
生、中村君、岩永君とともに確認し  
あつたのである。

### 特攻平和会館にて

慰霊祭の当日の朝、鹿児島市内を地  
元同期生の車で出発し、十一時には祭  
場に到着した。八十八夜を迎えた茶畑  
に囲まれて、武家屋敷など古い建物を  
保存した優雅な町並みは、小京都とも  
呼ばれ、古戦場の面影はなく、平和そ  
のものである。

新装なった知覧平和記念会館の中央  
には、特攻の象徴として「飛燕」三式  
戦闘機が置かれている。特攻関係者の  
最上さん(54期)、菱沼さん(56期)  
の努力によって、所有関係者から特別

に譲り受けたもので、同期の佐藤清英  
君も、熱烈にこれを推進した。

館の両側にはこの機を囲むように、  
隊員の写真が隊別に掲げられている。沖繩  
特攻は各地区発進を含めて総員一、〇  
二八柱(最新数字)であるが、このう  
ち六三柱を残し全国より写真を入手し  
た。遺族住所不明な方があと一二八柱  
だという。最近まで所長を務められた  
板津さん達の不断の努力の結晶であ  
り、頭が下がる。遺品と遺言や当時の  
スナップ写真には、明るい表情がうか  
がえて、全く暗い影がない。

地元世話人中村善治君(57期)は、  
こう話してくれた。「特攻を美化し  
ざるのでは……」というM新聞記者  
を、「よく見てから考えろ」と、この  
記念館に連れてきたら、いつまでも出  
てこない。彼は写真と遺言にクギづけ  
になり、涙を流していた……という。  
そこに理屈を越えた何物かが、胸に突  
き刺る。私どもにとっては、この胸に  
刺さるものが欲しいのである。

午後一時三十分から開始された例祭  
は、読経、弔辞、焼香と続き、五七期  
生と偕行社の弔辞もあった。

町長挨拶では、石灯籠は英霊一、〇  
二八柱の数だけ建てる計画で既に五六  
八基に達したこと、「夢ちがい観音」  
の完成、記念館に準(一式戦闘機)実

物大模形の寄贈などの発表があった。  
偕行社寄進の大火石灯籠が、お堂入口に  
聳え立っていたが、これに関し表彰が  
あった。

例祭も三十回を重ね、特攻慰霊と平  
和祈念のため例祭を永久に継続する決  
意を確信をもって述べられた。貴重な  
歴史の継承は、これらの方々の方々の善意に  
よって保持されることは有難い。参列  
者の高年齢も目立っているが、この場  
では元氣一杯に背を伸ばしている。

### 特攻のお母さんと女学生たち

最前列に注目が集まった。特攻隊員  
が「お母さん」と呼んで親しんだ鳥浜  
とめさんが、孫嫁さんに車椅子を押さ  
れての参列である。毎年欠かさずに出  
席されている。「お元氣ですね」と声  
をかけると「あんたも同期生……」と、  
聞いて下さった。

韓国人特攻参加の光山(金)大尉の  
おい夫妻が、とめさんに深くと頭を下  
げ、マスコミのカメラが、それを追っ  
た。

無条件の友情が時を越え、国境も乗  
り越えている。この姿が、今の日本に  
欲しいのだ。

例祭のあと、当時の援護戦闘機隊  
長、星野善彦君(57期)の説明で飛行  
場の跡を偲び、三角兵舎跡で、なでし  
こ会と合流した。この会は知覧高女の

会で、当時この兵舎で隊員の身の世話をし、献身的に尽くしてくれた人々である。この人たちは、隊員との思い出を忘れ難く、毎年この日にクラス会を開いて、全国から集まっている。二十数名という数は数年前と変わらない。

亡き友と盃を交わし、軍歌を歌った。出撃の時の歌など、彼女たちは歌うが、我々は知らない。私も中支戦線からソ連抑留を経て帰国するまで、特攻のことをほとんど知らなかった。それだけにこの歌声は印象深く、涙が湧いてきた。

ここにも至純な友情が、僅か一週間前後の滞在のなかに生まれていた。ひと度発てば、二度と会えない運命の厳しさを十三、四歳の少女は味わった。それが四十数年絶ちえない絆になっている。

この例祭三十回のうち、二十数回は特操（特別操縦見習士官）少飛（少年飛行兵）が中心に進められ、陸士側がこれに気付いて参加したのは、その後だった。「陸士の連中は、今頃何事だ……」という厳しき批判を受けたと、当時の世話人が語ってくれた。反省させられることである。なでしこ会の人たちは、その始めの頃から五七期編隊長の名を記憶しながら参加してくれたのである。

座間からの転科した特攻要員 思えば十九年四月座間卒業のとき、多くの同期生が航空に転科した。改めて操縦の訓練を始めた。座間転が、技術を習得した時期と沖繩特攻が始まった時期とが一致して、つぎつぎと特攻を志願して各地で順番を待った。

出陣組は知覧に移動し二日から二週間の間、沖繩に向かつて発進した。その姿の男々しく、その気持の明るく、その表情のやさしさは、若い乙女の胸に深く刻まれたことであろう。

同時に、非常の時大君の下に結集し、身を捨てて国を守るその心意気は、深く敵国人の心をえぐり、終戦の条件を緩め、国体を護持しえて、皇室の存在の価値を認めさせた。

さらには、昭和天皇の御聖徳を仰いで、御大喪に一六四カ国の首脳者が集ったのも、この昭和特攻に守られた天皇の御聖徳に世界中が感動したことによる。

将来、昭和の歴史の大半は忘れ去られても、この昭和特攻の名は長く日本の、世界の史上に残り、次の世代の若者に呼びかけ、皇室の安泰と、国家の平和を守り抜くことだろう。

その確信を得た私は、桜島の噴煙を望みながら胸のふくらむ思いで知覧を離れたのである。

## 陸軍航空特攻戦没者名簿にのらなかつた特攻隊員

生田 惇

いかに神風攻撃が有効であったかを、戦争の終った時に知り得た。比島作戦においては、神風攻撃の二六・〇パーセントが戦果を挙げている。即ち延べ六五〇機のうち一四七機が命中または至近弾となって奏効している。

沖繩戦では比率は落ちて奏効率は一四・七パーセントであるが、機数が多く一、九〇〇機であったから三七九機が戦果を挙げている。——（日本海軍航空史から、アメリカ側から見た特攻機（の戦果）

客観的に、特攻隊戦没者全員が敵艦に命中したとは信じられない。むしろ右の数字のように、無念の涙を呑んだ勇士のほうが圧倒的に多いのである。

しかし、この無念の涙を呑んだ多くの勇士があったために、米軍を脅怖に陥れる程の戦果を挙げたと言えないであらうか。例えば有名なモリソン戦史には次のような記述がある。

一月四日一七時一二分、部隊がスル海を北上してアピ東水道にさしかかった時、護衛空母オマニイ・ベイ号は、

あたかも中空から落下して来るような、一機の特攻機の攻撃をまともに受けた。一七名の見張り員もレーダーも全くこれに気付かなかった。同艦に命中した特攻機は、搭載機と飛行甲板を破壊し、機体の一部が飛散って艦橋を破壊した。爆弾の一つは飛行甲板を貫通して格納庫内で爆発、他の一弾は更に格納庫甲板を貫通して前部機械室の燃料に引火した。このため同艦は猛烈に包まれ、火災は全艦に拡大した。

数分後、他の特攻一機が護衛空母ルンガポイントに突入して来たが、僅か五〇ヤード離れて海中に墜落した。

駆逐艦バインズ号は、オルデンドルフ提督の命令で炎上中のオマニイ・ベイ号を雷撃し、これを沈没させた。同艦の乗組員中九三名が戦死又は行方不明、六五名が負傷した。また生残者中六名は、救助艦が体当たり攻撃を受けため戦死した。

同日、津留洋中尉の率いる一誠隊の三機が、八機の戦闘機に守られてマニラの飛行場を飛立った。特攻機には二五〇脱弾二発が装着されていた。ほかに進襲隊の三機がサンホセ付近の艦船攻撃に出撃した。一四機出撃できる

が、この日の損害は自爆七、未帰還五機と記録されている。特攻戦没者名簿には、この日に一誠隊津留洋中尉、石

川誠司少尉、進襲隊小林直行軍曹の名が記されている。

さて、オマニイ・ベイ撃没の功は一誠隊の一機によることはほぼ確実と思われるが、その氏名を確定することは困難である。まして救助艦に体当たりした人の名は知るよしもない。特攻隊を核心とする組織的な必死の突撃が、この攻撃を成功させたと言うほかないのである。その故に特攻戦没者はその成否にかかわらず二階特進のうえ、氏名を全軍に布告されている。ところが、軍の指揮の不手際あるいは手違いから、その志にかかわらず不幸にも特攻の前に戦死し、あるいは氏名さえ不明の方々がある。私は、前述の趣旨からこの方々の名を探し出し、特攻隊戦没者名簿に載せて顕彰すべきであろうと思う。

万朵隊の人達

万朵隊は、陸軍で最初に編成された特攻隊である。編成に当たった鉢田教導飛行師団長小西六郎少将は、攻撃の必成を期して同師団の優秀者を選出した。空中勤務者は若本益臣大尉以下十六名。十月二十九日、若本隊長は妻に手紙を書いた。

和子

益臣

其後御社健なりや 小生二六日無事比島到着 万朵隊の名を貰い 部隊

長として大いに張切っている 発為万朵桜 衆芳難与儔

其の名に恥じざる様頑張るぞ 何卒御安心下され度 御父母様は如何精々孝養され度 又御身の身体は呉々も大切にされる様御願います

九州の父母様 北京の兄にもよく手紙を出して置いて下さい 今度の比島生活はこの前と異なり食欲もあり涼氣満ち 内地の秋の様で至極好調なり しばらく便り出来ぬかも知れぬ 御自愛の程を

十月二十九日

比島は既に戦雲が逆巻いていた。明日にでも出撃の命が下りうる状況下であった。陸軍航空特攻のことは妻にも秘してその必成期する訓練を続けていた。

十一月五日朝、万朵隊の若本隊長以下五名の幹部が双軽でリバを出発した。新たに出現した機動部隊攻撃のため、富永軍司令官がマニラに同隊幹部を招致したのである。ところがマニラには機動部隊艦載機群が殺到していた。若本機は同市のニコラス飛行場南西付近でグラマン戦闘機群と遭遇、若本益臣大尉、園田芳巳、安藤浩、川島

孝の各中尉、中川克己少尉が機上に戦死した。操縦桿は園田中尉が握っていた。全身を数弾に貫かれ即死の状況と

判断されたが、胴体着陸を成功させていた。収容に当たった将兵はその不屈の気力と技術に感銘した。凛々しい美青年であった。

この後、鉢田で多くの特攻隊が編成されたが、若本隊長以下の無念を晴らすというのが合言葉のようになった。その若本大尉以下の名は特攻戦没者名簿にない。

残された万朵特攻隊員は見事な戦闘を続ける。十一月十五日午前四時、万朵隊の四機が暗闇をついてカロカン飛行場からレイテに向けて出撃した。掩护の一式戦八機がこれを追った。万朵隊機は空中集合のため飛行場の周囲を大きく旋回するが、なかなか集合できない。雲が低く、ときおり翼灯が見えなくなる。

やがてニルソン飛行場方向に翼灯らしきものが流星のように落下した。瞬時に閃光を発し、マニラの夜空を震わす大爆発音が聞こえた。八〇〇キロ弾の炸裂音である。万朵隊の夜間進攻を無理と判断した村岡隊長は、万朵隊及び掩护戦闘隊に着陸を命じた。

掩护戦闘隊および奥原、佐々木機が無事着陸した。ニルソン飛行場からの連絡で、自爆したのは近藤行雄伍長であることが判明した。しかしもう一機、石渡編隊長機の行方はいかに知れ

ず、特攻攻撃を敢行したものと判定された。

十一月二十五日、比島各地は機動部隊機の攻撃が猛烈であった。万朵隊に出撃の命があり、爆撃の間隙をぬって二機が出撃の準備を整えた。「第四飛行師団長が見送りに来られるまで待て」と指示する師団参謀と「早く発進させねば危ない」と村岡隊長が押問答するうちに敵機の襲撃をうけ特攻機が炎上し、奥原英行伍長が戦死した。

この二件は、作戦指導の不手際による戦死と思われ、特攻戦没者名簿には近藤行雄伍長の名も奥原英行伍長の名もない。その志を思うときまことに残念である。

薫空挺隊員のこと

十一月二十六日、薫空挺隊の発進基地リバは三回にわたって艦載機の攻撃を受けた。飛行第208戦隊整備班長青木恒夫中尉は南方で押収したダグラスIII型機の安否を確認のため四周を点検した。この飛行機こそ、わがレイテ輸送を成功させるためブラウエン飛行場に強行着陸するかがえのない機体である。この時、敵の投下していた万年重型爆弾にふれて負傷した。重傷の青木中尉は「山口少尉、あとを頼む」の一言を最後に絶命した。

夜十時三十分、中重男中尉以下六〇

名(二〇名の高砂兵を含む)の薫空挺隊を乗せた四機のダグラスがリパを発進した。翌日の偵察により、一機はオルモックに不時着したが、三機はブラウエン飛行場への強行着陸に成功したものと判断された。このためか二十七日のわがレイテへの海上輸送は、敵機の妨害を受けることなく成功したのである。

ブラウエン飛行場は、味方第一線からは遠く、敵陣の核心部分である。ここに突入することは難事であり、救出の手段も講じえなかった。沖繩の義烈空挺隊と酷似するものであるが、この時期特攻扱いをされなかったために全員の氏名さえ明らかでなかった。

飛行第208戦隊はニューギニヤ以来歴戦の双軽戦隊である。選抜された桐村中尉以下八名の空中勤務者は、本来と異なる任務と使用機に如何なる覚悟をもって対したであろうか。特攻の覚悟以外のなものでもあるまい。この時の同隊の戦没者は桐村浩三中尉(京都・大正4年生)、大沢正弘中尉(56期・山梨県)、五藤武准尉(広島・大4)、寺島近馬准尉(宮城・大4)、塚田弘治曹長(少飛4・埼玉)、田中正澄曹長(少飛・兵庫)、高木弘曹長(福井・大1)、北土曹長(養成所出身・北海道)マラリヤの高熱を

おかしてダグラスの操縦桿をとった大沢中尉、新妻と分けた香水を身につけて護耶と敵中に香ったであろうか。

以下次号

## 国を思う心

—小泉信三講演集より—(承前)

二瓶英二郎

最も重く、苦しい義務

けれども、国を護るといふことは、生ま易さしいことではありません。前に私が、それを日本人の日本に対する最も重く、また苦しい義務といつたのはそれ故です。

凡そ我々の願うところは、無事に暮らして、自分と妻子及び子孫の幸福を図りたいといふことです。特別の天才とか英雄というものは別とし、大多数の人間は、自分相当の職業を得て働き、その収入によって暮らしを立て、結婚し、子供を生み、子供等を無事に育て教育して、出来れば孫を持ち、そうして天命を全うして、先祖から遺された、先祖もそこに葬られているこの日本の土になりたいものだと思つてのことでしょう。

けれども、一旦事が起れば、国民はこんな願いは言つてはいられません。人々は親に別れ、妻子に別れて、戦場に出なければなりません。雨露風雪にさらされなければなりません。そうして、何時敵の弾に中らなければならぬいかも知れないのです。こんな苦しい、危ないことはありません。けれども、苦しいことはイヤだ。危ないことはイヤだといへば、妻子の住む国、祖先のものでも子孫のものでもある、この国の独立を護ることは出来ないのです。

たとえば、火や水に立ち向うのは危険なことですが、自分の住む家や村や町の安全の爲めには、人は危険を冒しても、火事や洪水に立ち向はなければなりません。火や水は恐ろしい。恐ろしいことは御免だといって、誰れも彼れも皆な逃げ廻つてばかり居れば、家も村も町も護ることは出来ません。国を護ることも同様で、誰れだつて自分の家で両親や妻子と安楽に一緒に暮らしたいし、鉄砲の弾なんかに当りたくないにきまっています。けれども

国民に、危険や苦難を冒しても国を護るといふ決意がなければ、独立国といふものは立つて行かないのです。勿論、戦争は避けたいことで、また

実際に、政治家や軍人や国民一般の心

得違ひの爲めに、しないでよい戦争をしてしまった例は少なくありません。そういうのをシナの言葉で無名の師を起すといいますが、無名の師の例は、歴史上に無数です。けれども避け得られたか否かは別として、一旦戦争が起れば現実には国は危ない。その国の危ないときに、国民の義務として一身の安全が安楽を捨てて出て、戦死したり、負傷したりした人々の犠牲の行為といふものは、これは国民として有難く思い、済まないと感じずにはいられない、貴い行為です。火事や洪水の例を前に引きましたから、それに譬えていましょう。

火事は火の不始末からも起ります。また、洪水も、例えば森林濫伐というような失策からも起ります。けれども、現に火が燃え出したとき、河が増水して堤防が危ふくなったとき、この火事は不注意から起つたもので、火の不始末をしたものの責任だから、自分は消さない。また、この洪水は森林の濫伐から起つたもので、罪は濫伐者にあるのだから、自分は堤防を守らないと、人が言つたらどうでしょう。それと同じように、戦争の原因については、我々国民として言いたいことが色々ありますけれども、しかし、国難が目の前に迫つてくるときにそれを

言っではいられません。国民は立ち上がって、ふりかかる危険を払わなければならぬのです。支那事変から太平洋戦争になった戦争についても、真実この戦争を好んで起こしたというべき日本人は、極く少ないでしょう。大多数のものは戦争を恐れ、厭いつつ、しかし事茲に至れば已むなしと思ひ定めて戦ったというのが事実でありましよう。少数の例外者を除けば、あとは誰れも戦争が好きというものはないでしょう。好きどころではないが、しかし、かくなる上は、国民として国家の危急に赴かなければならぬ。これが我々の務めだというのが、人の気持ちであったのです。

#### 死者を思え

その人々の悲戦苦闘と犠牲にも拘らず、日本は敗戦国となりました。けれども、戦の勝敗如何にかかわらず、その人々が国に対する義務に忠誠であり、そうしてその事に命を捨てた行為、犠牲の貴いことは、変るべきではありません。身を殺して仁をなすは仁の最も大なるものであるといえます。即ち人を愛し、人を救うために自分が死ぬということとは、最高の愛の行為だということなのです。戦死者は特定の人を救うために死んだのではありませんが、日本国民という、過去から未来に

及ぶ同胞の全体の為めに身を殺したものであって、その人々に身を殺させた同胞国民としては、その人々とその行為を忘れては済まないのです。

皆さんのお父さん、私の倅、その他無数の戦死者の死は、このような意味を持つのです。その人々の死にも拘らず、日本が敗れ、彼等の死を空しくしたのは、まことに忍びないことです。が、貴い犠牲の価値は、敗戦の故にじびるものではありません。水に溺れる学童を救わうとして、水に飛び込んだ教員が、子供を救うことが出来ず、不幸にして共に溺れたとしても、その人の貴い心と行為は忘れらるべきものではありません。どうか、今後は、学童が水に落ちることのないように、設備なり、何なり注意したいものです。同様に、どうか今後、国民が国を護るために身を殺さなければならぬような事態の起らぬようにしたいものです。けれども、そういう事態の起らぬ世界の来るのを待ち望むということは、身を殺して同胞を護ろうとした人々と、その行為の貴さを忘れるということではありません。皆さんのお父さんがなされたように、国の為に死ぬというのはこういうことなのです。

## 万世特攻遺品館

### 建設にご協力を

旧万世陸軍飛行場は、戦雲急を告げつつあった昭和十九年、国土防衛の第一線特攻基地として建設され、以来終戦まで若き特攻烈士が莞爾として沖繩の大空に飛び立ち、征って帰らざる壮途につかれた大戦思い出の地であります。

昭和四十七年五月、全国各地から寄せられた浄財により、特攻振武隊の一九八名の英霊を祀る慰霊碑が建立され、毎年立派に慰霊行事が行われて来りました。

特攻烈士が残された血涙の手記をはじめ数々の御遺品が収集されましたので、その御遺徳を後世に伝え、恒久平和を希求し守るべく、この地に特攻遺品館が建設されることになりました。

皆様の暖かいご理解とご協力を切にお願ひ申し上げます。

万世特攻慰霊碑奉賛会

会長 加世田市長

61期 吉峯 良二

#### 一、事業場所

鹿児島県加世田市高橋

一九五五—

万世特攻慰霊碑隣

#### 二、事業期間

起工 平成二年五月(予定)

竣工 平成三年三月(予定)

#### 三、募金目標 老億円

#### 四、払込方法

##### 1、郵便振替

口座番号 鹿児島〇一三七五二二

加入者名 万世特攻慰霊碑奉賛会

##### 2、銀行振替

振込先 鹿児島銀行加世田支店

受取人 万世特攻慰霊碑奉賛会

口座番号 普通 五三七一〇〇

振込用紙は借行社事務局にあり

ますのでご請求下さい。

##### 3、直接送金の場合の宛先

〒894加世田市川畑二六四八

加世田市役所庶務課気付

電話 〇九九三—53—二二

#### 五、寄附金控除

熊局法審第一四三号、(平成元年6月13日付)にて認可されています。確定申告の折、払込金受領証を添付して申請して下さい。

尚一口幾らとは決めていません。応分の御寄附をお願い致します。

特攻隊慰霊顕彰会

事務局長 最上貞雄

東京都千代田区九段南四—三

一七

財団法人 借行社内

電話 03—二六三—〇八五一

収 支 計 算 書

特攻隊慰霊顕彰会

自昭和63年4月1日  
至平成1年3月31日

科 目	金 額	円	円
収入の部			
1 募集基金入	1,846,000		
2 慰霊祭会費収入(寄附金)	1,611,000		
※平成1.3.26			
3 月例会費収入	110,000		
4 受取利息	953,934		
5 雑収入	206,000		
収入の部合計			(4,726,934)
支出の部			
1 慰霊祭費用	2,481,735		
2 月例会費用	953,680		
3 貸借料	3,000		
4 渉外費	291,006		
5 振替手数料	940		
6 機関紙「特攻」	803,680		
支出の部合計			(4,534,041)
当期収支差額			192,893
前期繰越残高			53,753,777
次期繰越残高			(53,946,670)

(注) 慰霊祭は平成1.3.26に実施した。特攻世田谷観音慰霊祭の費用は当期慰霊祭費用に計上してある。  
募集基金収入は知覧石灯籠基金である。貸借対照表

貸 借 対 照 表

特攻隊慰霊顕彰会

平成1年3月31日

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
現金	82,292	未払金	446,500
普通預金	341,429		
(三菱四ツ谷)	(319,208)	計	446,500
(一勤四ツ谷)	(9,947)		
(一勤市ヶ谷)	(5,128)		
(富士市ヶ谷)	(7,146)		
定期預金	14,418,507	正味財産の部	
(三菱四ツ谷)	(1,089,936)	前期繰越残高	53,753,777
(一勤市ヶ谷)	(13,328,571)	当期収支差額	192,893
郵便振替	11,930		
(東京4-59580)		次期繰越残高	53,946,670
割引債	2,370,000		
(野村証券)			
中期国債	1,559,442		
(野村証券)			
模型・備品	35,609,570		
合 計	54,393,170	合 計	54,393,170

以上のとおり報告します。

平成1年6月26日 特攻隊慰霊顕彰会会長 竹田 恒徳 理事長 鈴木瞭五郎 局長 最上貞雄

以上決算を監査して適法正確なることを認めます。

平成1年6月26日 監査 斎藤 義雄、須田昭太郎

特攻隊慰霊顕彰会々則の改訂

最上事務局長

去る6月28日借行社に於て顧問、理事会を開催し、特攻隊慰霊顕彰会の会則中次の二項を改訂しました。

第五条 事務局の住所

東京都千代田区九段南四一三十七

第十四条 会計年度

毎年一月一日に始まり同年十二月

三十一日に終る。

編集後記

現日本大学教授の長塚隆一先生のアンドレ・マルローの言葉は大変感銘を受けられた方が多く、今号に再掲載させて頂きました。

各地で行われている特攻隊慰霊祭の様相や特攻にご関係のあった方々の肌で触れられた体験談、かくれた逸話等写真がありましたらぜひそれを添えてご投稿いただきたくお願い申し上げます。

特攻隊遺書顕彰会では目下「特攻総覧」(仮称)を編纂中です。第一部は陸海軍の各種特攻兵器の開発、特攻隊の編成、戦闘概要等全般の記述、第二部は特攻に関係のあった全国各地の慰霊碑について、第三部は特攻で国に殉ぜられた方々の名簿と予定しております。発行は来年早々を予定しております。皆様の物心両面に涉るご協賛をお願い申し上げます。